

2019 年度 立命館大学・大学院入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご家族の皆様、ご子息、ご息女のご入学、おめでとうございます。

また、学部での勉学を終え、さらに、大学院で学ばれる皆さん、ご進学、おめでとうございます。

本年度、立命館大学は、8,826 人の新入生を迎えました。

また、大学院には、1,325 人の皆さんを迎えました。

このうち、学部と大学院を合わせて、世界 20 カ国・地域から、649 人の国際学生の皆さんを迎えました。

立命館大学は、1900 年の創立から 119 年という長い歴史を有し、京都・滋賀・大阪の各キャンパスに、3 万 6 千人の学部生・大学院生と 16 の学部、22 の大学院研究科を擁する、日本で有数の総合大学です。

皆さんは今日から、この大学で最先端の知識に触れ、高度な学びを実践することになります。学長として、皆さんを心から歓迎するとともに、お祝いを申し上げます。

今日、私たちをとりまく状況は大きく変化しています。あらゆるものがボーダーを越えて移動し、グローバル化が急速に進展しています。

他方で、自国中心主義の拡大、政治の不安定化と無差別テロの増加、難民の増加や経済格差の拡大、環境問題の深刻化などの世界的課題が生じています。

また、人工知能（AI）や生命科学が急速に進展し、不安を感じる人も少なくありません。人間とは何か、生きるとはどういうことか、社会とは何かが、根本から問われるような時代になってきているのです。

社会が大きな変革期を迎えたとき、大学の役割は、変革の中から新たな価値や意味を見出し、人々に的確な方向として提案し、社会を動かす、そのような人を育成することだと思えます。

それはどのような人でしょうか？私は、例えばスティーブ・ジョブズのような人だと思っています。どういう意味でしょうか？スマートフォンなどの新しい機器を世に送り出したからでしょうか？いいえ、違います。鍵は彼の発想にあります。

日本ではいまでもコンピュータを機械、単なるツールだと見る傾向にあります。米国でもそのような見方が主流だったのですが、ある時期に、それとは異なる見方をする人たちが出てきたのです。

アラン・ケイという人が、大型コンピュータしかなかった時代に、動画を見たり、スケッチができたり、他の人とつながることができる個人向けコンピュータのコンセプトを提案し、それにダイナブックと名付けました。このコンセプトは一部の人たちに大きなインパクトを与え、その人たちがいくつもの試作品を作りました。影響を受けたひとりがスティーブ・ジョブズでした。

彼は、このコンセプトの意味をいち早く理解しました。これはモノではなく、コト、すなわち、新たな出会いや体験を提供する「場」だと。その後の彼は、マッキントッシュを始めとするパーソナルコンピュータ、携帯型デジタル音楽プレイヤー、タブレットPCなど、私たちにわくわくする体験を提供してくれました。その彼が満を持して世に送り出したのがスマートフォンだったのです。それは、まったく新たな体験や出会いの場を日常に持ち込むものだったのです。

また、日清食品の創業者・安藤百福さんは本学で学ばれましたが、20世紀最大の発明の一つと言われるカップヌードルも、同じように、新しい「経験」を提供するものでした。

このような人財が今、強く求められていると思います。このような力は、世界の中から新たな意味を見出せる感性と、それを支える豊かな感動体験の蓄積だと考えています。

立命館大学は、喜び、感動する体験を、教育や研究を通じて皆さんに提供し続けたいと思っています。

本日は、1階会場の入口にコミュニケーションロボットのエミューくんが皆さんをお迎えしてくれていたかと思います。この春からロボットの実証実験をキャンパスで実施することを計画しています。各キャンパスで、最新の技術や研究成果が実感できる取り組みを展開し、わくわくするような光景をお見せしたいと考えています。

国際社会がかかえる課題に対して、国連は、世界に共通する平和、健康、ダイバーシティ、エネルギーなどの17の課題をSDGs、すなわち持続的開発目標として策定しました。国際的な連帯や協調を通じて、世界に共通する課題を解決して行こうという意志を表明しています。

SDGsの理念は、「世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する」という立命館学園の理念をまさに体現するものです。すでに本学園では、平和、環境問題、食問題、ダイバーシティ、スポーツ健康などについて、小学校から大学院に至るまで、様々な取り組み実績があります。

大学は社会と切り離された存在ではありません。世界に共通する課題に、学問を通じて取り組む、課外活動として取り組む、日常生活の中で取り組む、そして学園全体が協調して取り組む。大学は社会の中であって、社会が抱える課題を明らかにし、それらの解決に積極的に貢献する存在であるべきだと考えます。

皆さんも、社会に目を向け、自分なりの貢献の仕方を考えてみてください。そのことが深い学びにつながり、学ぶとは何か、生きるとは何かという問いにつながり、そして未来を変えることができます。大学はそのような皆さんを応援します。

最後に、立命館の意味を紹介します。立命という言葉は、中国の儒学者である孟子の尽心章に由来します。「修養を積んで、人生を切り開いていく場所」という意味です。

めぐり合うということはひとつの奇跡であり、皆さんとこの大学で出会えたことを心から喜び、今後を祝福したいと思います。立命館での学びを通して、人生を、未来を、切り開いていく力を身に付けてください。

以上をもって、学長の式辞といたします。

2019年4月2日
立命館大学長 仲谷善雄

(以上)